

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(世界ランクシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0535

(注)本稿は 2021 年 6 月 22 日から 7 月 1 日まで 7 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2021.7.3

前田 高行

群を抜く米国の軍事費と武器輸出額:世界及び中東主要国の軍事費と武器輸出入

(世界ランクシリーズ その7 2020年版)

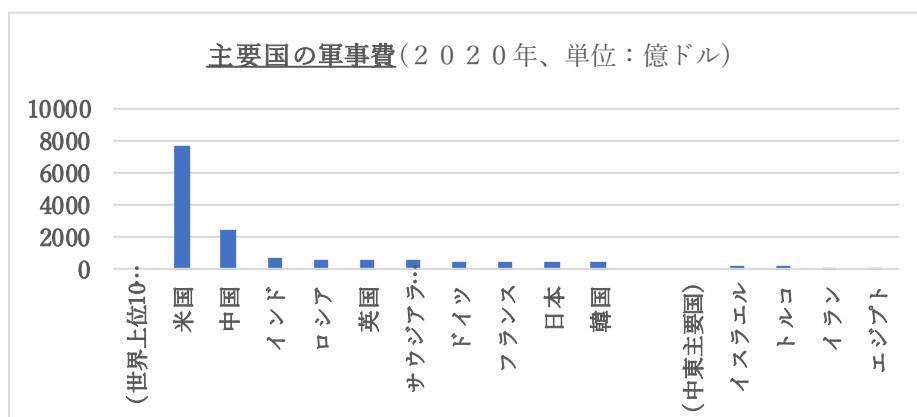
国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第7回の世界ランクは、スウェーデンの「ストックホルム国際平和研究所(Stockholm International Peace Research Institute, 略称SIPRI)」のホームページに発表されたデータベースの中から SIPRI Military Expenditure Database 及びSIPRI Arms Transfers Database を取り上げ、2020年の世界と中東主要国の軍事費、一人当たり支出、GDPに占める比率及び政府歳出に占める割合を比較する。また2011年から2020年までの10年間にわたる各国の武器輸出入合計額についても分析する。

* SIPRI ホームページ: <http://www.sipri.org/databases>

(圧倒的な米国の軍事費、2位中国の3倍、日本の16倍！)

1. 軍事費支出の比較



世界で軍事費が最も多いのは米国で2020年の支出額は7,782億ドルである。同年の世界全体の軍事費は1兆9,300億ドルであり、同国だけで世界の4割を占めている。これに次ぐ

のは中国の2,523億ドルであるが、米国の3分の1程度にとどまっている。それでも中国の軍事費が世界に占める割合は13%であり、米国と中国二カ国を合わせると世界の軍事費の5割を超える。

これら2カ国に続くのがインド(729億ドル)であり、世界全体の4%を占めている。4位から10位までは、ロシア(617億ドル)、英国(592億ドル)、サウジアラビア(575億ドル)、ドイツ(528億ドル)、フランス(527億ドル)、日本(491億ドル)及び韓国(457億ドル)の各国である。因みに日本の軍事費を他国と比べると、米国は日本の16倍、中国も日本の5倍である。また韓国は日本より7%少ない規模である。

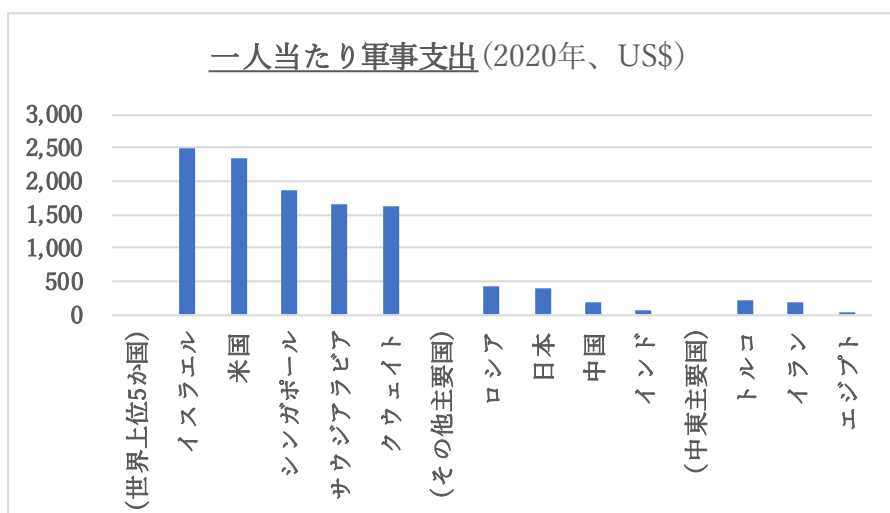
中東の主要国を見ると、サウジアラビアが575億ドル(世界6位)、イスラエル及びトルコは各々217億ドル(世界15位)、177億ドル(同16位)であり、イランは世界18位(158億ドル)である。エジプトは中東で人口が最も多く、軍が国家権力を握っているが、経済規模が小さいため、軍事費は45億ドルにとどまっている。これはサウジアラビアの10分の1以下、イスラエルの5分の1であり、世界45位の規模である。

(注)サウジアラビア以外の湾岸産油国について:

SIPRIの統計ではUAEの軍事費は2014年以降明示されていないが、2014年以前の毎年の軍事費はいずれもイスラエル、トルコ、イランを上回っており、世界10位前後に位置している。また、後述する通り2011年から2020年までの10年間の武器輸入額はエジプトに次ぐ世界6位の規模である。また世界有数の天然ガス輸出国であるカタールも過去10年間の武器輸入額は世界14位である。これらのことから、UAEやカタールの軍事費は世界の10~20位程度にあることは間違いないと考えられる。

(一人当たり軍事費はイスラエルが2,402ドルで世界一!)

2. 一人当たりの軍事費



国民一人当たりの軍事費が世界で最も多いのはイスラエルであり2,508ドルに達する。2位は米国の2,351ドルで、一人当たり軍事費が2,000ドルを超えるのはこの二カ国だけである。3位以下とその額は、3位シンガポール(1,856ドル)、4位サウジアラビア(1,652ドル)、5位クウェイト(1,625ドル)であり、6位オマーン、7位ノルウェー、8位オーストラリアまでの8カ国が一人当たり1,000ドルを超える国々である。

上位の顔ぶれにはサウジアラビア、クウェイト、オマーンのGCC各国が並んでいる。GCC6カ国

はサウジアラビアを除きいずれも人口が少ないが、豊富な石油収入により一人当たりの軍事費が大きい。同じGCCのUAE及びカタールはSIPRI2020年統計では明示されていないが、財政規模が最も小さいバハレーンが一人当たり軍事費で13位に入っていることから、両国とも10位以内であることは間違いないと言えよう。

上記以外の主要な国では韓国が10位(892ドル)に入っている。またロシアは30位(423ドル)、中国58位(175ドル)、インドは53ドルで世界89位である。中東諸国のうちトルコは210ドル(世界51位)、イランは188ドル(同54位)、エジプトは44ドル(同96位)である。

日本の一人当たり軍事費は389ドル、世界33位とされている。日本を1とした場合、米国は6.0倍、サウジアラビア4.3倍、韓国2.3倍であり、一方中国は日本の2分の1、インドは10分の1である。

(世界上位10カ国のうち7カ国が MENA !)

3. 軍事費の GDP 比率



各国の GDP に占める軍事費の比率を見ると、世界 1 位は中東のオマーンであり、その比率は 10.9% である。2 位も同じ中東のサウジアラビアで GDP 比率は 8.4% である。3 位以下 10 位までの国とその比率はそれぞれ以下のとおりであり、15 位までが GDP 比率 4% を超えている。

る。

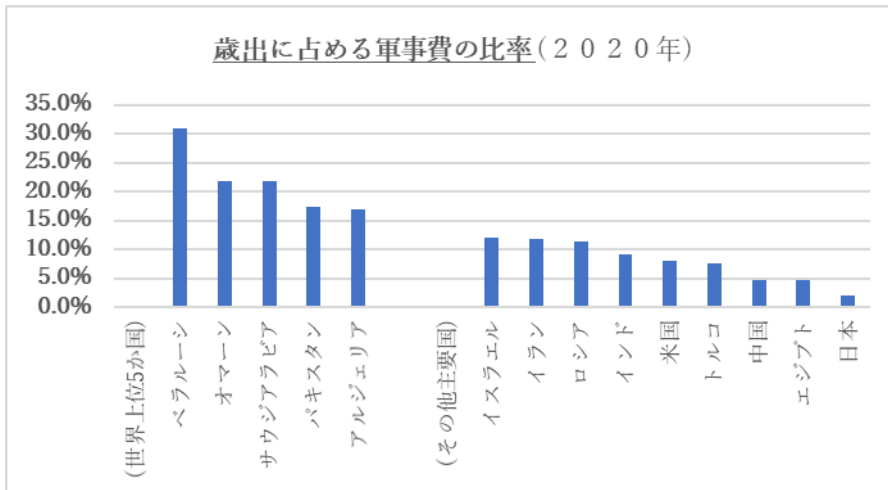
アルジェリア(6.7%)、クウェイト(6.5%)、イスラエル(5.6%)、アゼルバイジャン(5.4%)、ヨルダン(5.0%)、アルメニア(4.9%)、モロッコ及びロシア(4.3%)

上位10カ国の顔触れを見ると中東が5カ国、中央アジア及び北アフリカが各2カ国、東欧が1カ国であり、中東・北アフリカ(MENA)諸国が多い。その他も中東と隣接したユーラシア地域にあり、世界の紛争地帯の国々が過大な軍事費を負っている姿が浮かび上がる。地域の大国であるトルコ、イラン及びエジプトは軍事費総額ではそれぞれ世界16位、18位、45位であるが、GDP比率はトルコ2.8%、イラン2.2%、エジプト1.2%で、世界順位はそれぞれトルコ30位、イラン43位、エジプト100位である。

その他の主要国を見ると米国は3.7%、インド2.9%、韓国2.8%、英国2.2%、中国1.7%などである。日本のGDP比率は1.0%、世界120位であり欧米先進国の中でも最も低い水準である。

(サウジアラビアは歳出の2割が軍事費！)

4. 歳出に占める軍事費の比率



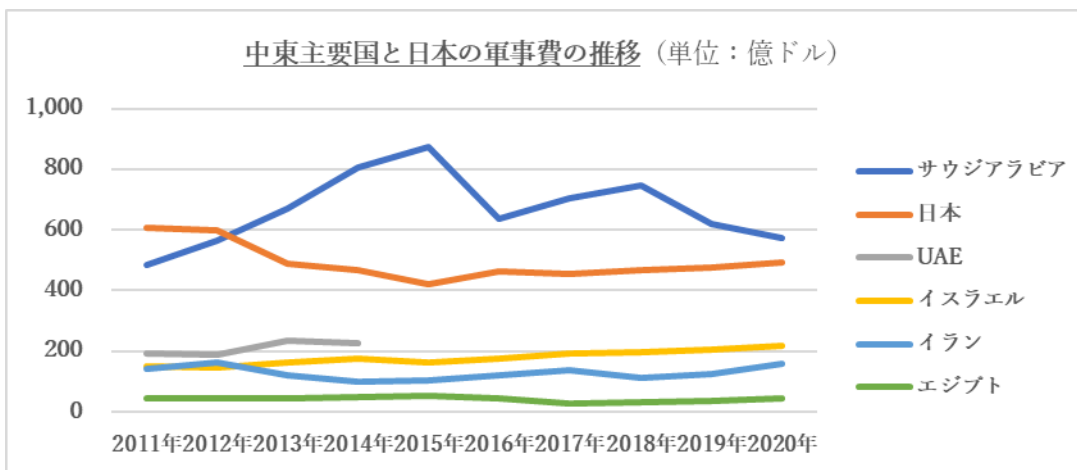
次に歳出に占める軍事費の比率を見ると、世界1位は東欧の独裁国家ベラルーシであり、同国は歳出の三割を軍事費に充当している。第2位と第3位にはオマーン(21.9%)とサウジアラビア(21.7%)が並んでおり、また4位及び5位のキスタンとアルジ

ェリアは17%台である。サウジアラビアの軍事費は金額で世界6位、一人当たりでは世界4位、GDP比率では世界2位である(1~3節参照)。世界最大の産油国の一つである同国は軍備に金を惜しまない国であることを示している。

その他主要国の比率を比べると、イスラエルは世界17位の12.1%、イラン11.7%、ロシア11.4%が10位台後半に並んでいる。インドは9.1%で、また米国は7.9%、トルコは7.5%である。軍事費総額で米国に次ぐ世界2位の中国は歳出に占める比率は4.7%にとどまっている。日本は世界130位の2.1%であり、世界的に見ると軍事支出が小さいと言えよう。

(2013年に日本を追い抜いたサウジアラビアの軍事費！)

5. 中東主要国と日本の軍事費の推移(2011年~2020年)



中東の主要な国及び日本の過去10年間(2011年~2020年)の軍事費の推移を比較すると、2

011年の軍事費は日本が608億ドルで最も多く、これに次ぐのはサウジアラビアの485億ドルであった。イスラエル及びイランは各々152億ドルおよび143億ドルで日本の約2割、エジプトはさらに少ない45億ドルでサウジアラビアの10分の1にとどまっていた。

2011年から2015年にかけてはサウジアラビアの軍事費が急増、一方日本は減少したため、2013年にはサウジアラビア670億ドル、日本490億ドルと逆転した。そして2015年のサウジアラビアの軍事費は日本(421億ドル)の2倍以上の872億ドルに膨らんでいる。この間イスラエルは微増、イランは100億ドル前後まで減少した。なおサウジアラビアと並ぶ湾岸産油国の UAE は2011年の軍事費が192億ドルであり、イスラエル及びイランを上回り、この状態は2014年まで続いている。しかし、SIPRI 統計は2015年以降同国の軍事費を明示していない。一方、後述する通り2011年から昨年までの国別武器購入累計額では UAE の武器輸入額は世界6位である。このことから UAE の軍事費は現在も中東ではサウジアラビアに次ぐ水準にあると見て差し支えないであろう。

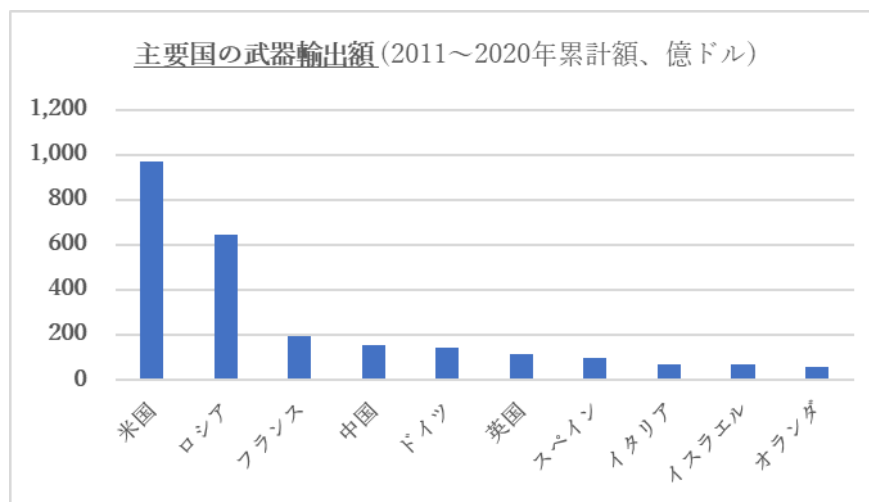
2015年以降の各国の軍事費の推移を見ると、サウジアラビアは減少傾向にあり2020年の軍事費は575億ドルであり、日本(491億ドル)に比べると17%多い。イスラエルの軍事費は過去10年間漸増傾向にあり、2020年の軍事費(217億ドル)は10年前の1.4倍である。一方、イラン及びエジプトは横ばい状態である。

6. 世界の武器輸出国と輸入国

ここでは世界の武器の輸出入額を取り上げる。各国の輸出額あるいは輸入額は年度によって大きく変動するため、2011年から2020年までの10年間の合計額について比較検討を行う。

(世界の二大武器輸出国—米国とロシア！)

(1) 主要国の武器輸出額(2011年～2020年合計額)



2011年から2020年までの10か年間の武器輸出額は世界全体で約2,800億ドル強であり、年間平均では280億ドルであった。国別では米国とロシアが際立って多く、米国の10年間の輸出総額は970億ドル、ロシアは642億ドルであった。世界全体に占める割合

はそれぞれ35%及び23%であり、2か国を合わせると世界の武器輸出額の6割近くを占めている。

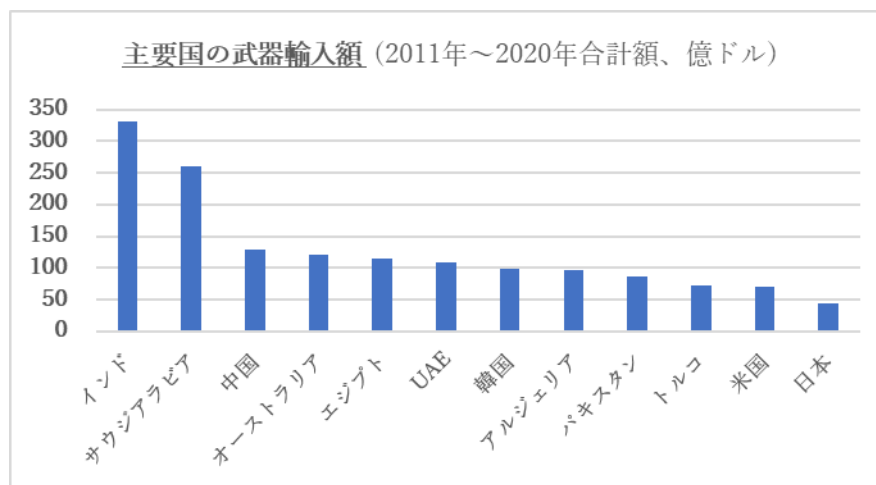
米国、ロシアに次いで輸出額が多いのはフランスの195億ドルであるが、米国あるいはロシアの

4乃至5分の1にとどまっている。これに続いて輸出額が100億ドルを超えているのは中国(151億ドル)、ドイツ(141億ドル)、英国(111億ドル)である。なお次項(輸入額)に触れるとおり中国は輸入額でも世界第3位であり武器貿易大国である。

武器輸出額7位から10位はスペイン、イタリア、イスラエル及びオランダである。上位10か国のうちEU諸国が6カ国を占めており、EUは世界的な武器生産地域であることがわかる。なお上位10カ国は戦闘機、艦船、戦車、ミサイルなど高額な兵器を得意としているため輸出額が膨らんでいる。しかし世界の多くの紛争地域では小銃、機関銃、地雷、ロケットなど小型火器が使われている。その意味ではウクライナ(輸出総額49億ドル、世界12位)、トルコ(同19億ドル、世界16位)などは、米国あるいはロシアに比べ金額的には少ないが影響力は小さくないと言えよう。

(武器輸入額ではインドが世界一、日本は世界18位！)

(2) 主要国の武器輸入額(2011年～2020年合計額)



2011年から2020年までの10か年間の武器輸入合計額は世界全体で2,800億ドル強であった。国別ではインドが最も多く同国の輸入額は331億ドル、世界全体の12%を占めている。輸入国第2位はサウジアラビアの261億ドルで世界シェアは9%である。

る。

第3位は中国の129億ドルであるが、前項でも述べた通り同国は輸出額では世界第4位であり、武器貿易が活発なことを示している。中国に次いでオーストラリア、エジプト及びUAEが輸入額100億ドルを超えている。7位から10位は韓国、アルジェリア、パキスタン、トルコでその輸入額は98～71億ドルである。因みに日本の過去10年間の武器輸入額は44億ドル、年間平均4.4億ドルであり、世界18位に相当する。日本の場合、軍事費(2020年、491億ドル、第1項参照)に比べ輸入額の割合が小さいのは武器の国産化が進んでいるためと考えられる。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
 Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
 E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp